

はじめに

筆者は専門医ではなく、総合診療医（General Practitioner：GP）である。

この15年以上、ご縁がありおもに歯内療法に関する執筆や講演を行ってきた。そのいずれにおいても、当初から冒頭でGPであることを強調し、あくまでもその視点から歯内療法の質を高めるためにできることを探り、検証を行ってきた。

つまり、筆者はGPとして、多くの一般開業医と同様に、歯内療法のみならず、う蝕や歯周病、クラウン・ブリッジから総義歯、そして小矯正から口腔外科に至るまで、そのすべての治療を日々行っている。

歯科疾患の多くは治癒することのない、いわゆる慢性疾患であることから、患者との信頼関係を最も大切にし、一人ひとりと生涯にわたり責任をもってかわり続ける覚悟で診療に臨んでいる。筆者はGPとして、日々訪れてくれる一人ひとりの患者に心から感謝しつつ、誇りをもって仕事をさせていただいている。

そのような総合診療をいくつかのカテゴリーに分類し、本書では「補綴」の分野において筆者が難しいと感じた症例を中心に供覧する。そのなかで、どうすればそうした症例に対応できるのかを考えるきっかけになることを趣旨・目標とし、あくまでも症例ベースで解説した。カテゴリーの最後に、症例を通して筆者が最も伝えたいことを“Master Point”として記した。また、本書と対になる、「保存」を柱にした1冊も同時に上梓した。併せてご高覧いただければ幸いである。

本書で示した臨床症例のなかから、読者の先生方にとって何か一つでも、明日の臨床において役立つ内容があるとすれば、幸甚の至りである。

2018年2月

阿部 修